

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書（終了）

1. 研究課題

（和文）術数学—中国の科学と占術

（英文）Study on Shushu : Science and Divination in China

2. 研究代表者氏名

武田時昌

3. 研究期間

2010年04月 - 2015年03月（5年度目）

4. 研究目的

術数学は、自然科学の諸分野と易を中核とする様々な占術とが複合的に絡み合った中国に特有の学問分野である。東アジア世界の科学文化を構造的に把握し、学問的な本質や特色を明確にするには、近代科学の先駆的業績として離散的な発見、発明を時系列に並べて顕彰するだけではなく、当時の科学知識がいかなる役割を担っていたかを分析的に考察する必要がある。そのような研究を遅滞させている最大の要因は、術数学がほとんど未開拓のままに放置されているところにある。そこで、術数学を総合的に研究するプロジェクトを立ち上げることにした。研究の手がかりとして、近年出土した簡帛資料には先秦から漢代に至る科学や占術に関する論説が満載されていることが注目される。また、日本に残存した『五行大義』『医心方』や陰陽道資料にも、中世の術数書の佚文が多数引用されており、きわめて有益である。それらの読解を通して、術数学の全体像を解明し、理論構造の特色を探る。

6. 研究成果の概要

術数学の学問的輪郭や形成過程について、出土簡帛（各種日書、馬王堆出土術数書）、中世術数書（『五行大義』『開元占経』）、医書（『医心方』『医説』）、近世易占書（『卜筮元龜』）等の基礎文献を解読しながら多角的、横断的な考察を行い、術数学の構造的把握を試みた。そして、研究成果を踏まえて、中国、韓国の科学史研究者を交えた国際ワークショップを開催し、術数学という枠組みでの東アジア伝統科学研究の意義や必要性を提言し、国際的な研究プロジェクトの体制作りを推進した。とりわけ、上海交通大学、ソウル大学の科学史研究者及び韓国術数学会との間で研究連携を深め、双方で国際ワークショップを各1回（全部で6回）開催した。そして、上海交通大学の研究グループと日本科学史学会の欧文誌 *Historia Scientiarum* (Vol.24, No.2) に特集号を企画し（2015年春刊行予定）、2014年3月にソウル大との研究集会は成果報告として『術数学の射程』を日韓両カ国語で同時に出版

した。また、国内では、日本道教学会の2014年度年会の併催イベントとして術数学国際ワークショップを主催するなど、科学史、伝統医学、道教、出土資料等の各学会との共催イベントを精力的に挙行し、術数学という学問分野を大いにアピールした。

8. 共同研究会に関連した公表実績

<出版物>

(1) 『陰陽五行のサイエンス 思想編』(2011年2月、武田時昌編、人文科学研究所)

(2) 『術数学の射程—東アジア世界の「知」の伝統』(2013年3月、2012年6月に行ったソウル大学を中心とする科学史研究者と実施した国際シンポジウムの研究発表者による論文集。掲載論文16篇。会議録の原稿を増補、加筆したもの、または新たな論文に差し替えたものを集録する。日韓両国でそれぞれ自国語に翻訳したものを同時出版)

(3) 『小島宝素堂関連資料集』(東方学資料叢刊第20冊、多田伊織・武田時昌編、2012年3月)

(4) "Historia Scientiarum" Vol.24, No.2 (日本科学史学会欧文誌) 特集号「東アジア科学史の新展開」(武田時昌編、2015年3月)

<術数学国際研究集会>

(1) 2010年10月2日 術数学国際ワークショップ2010「東アジア伝統医学研究の新展開」(国外招聘者: NGUYEN THI Duong (阮氏楊) ベトナム社会科学院・漢喃研究所研究員)

(2) 2012年2月2-4日 日韓術数学ワークショップ2012「東アジア術数学研究の現状と課題」(国外招聘者: 韓国術数学学会の中心メンバー6名、趙仁哲(円光数碼大学校教授・朴權壽(忠北大学校教授・李容周光州科学技術院准教授・全勇勳(ソウル大学校奎章閣韓国学研究院講師・李東哲龍仁大学校教授・徐大源忠北大学校講師)

(3) 2012年6月21-23日 第一回 Templeton 東アジアの科学と宗教” 国際ワークショップ「東アジア世界の「知」の伝統: 科学と思想、宗教のあいだ」(場所: ソウル大奎章閣) (テンプルトン財団のプロジェクト支援によるソウル大科学史研究室(代表: 金永植教授)との共催イベント、術数学研究会メンバー10名を含む日韓中の学者18名による研究発表集会)

(4) 2013年2月12-14日 術数学国際ワークショップ2013「易占研究の本質と日本的展開」(北海道大学大学院文学研究科中国文化論講座(代表: 近藤浩之准教授)との共催イベント、国外招聘者: 吳偉明香港中文大学教授)

(5) 2013年3月8-10日 東アジア数学史国際ワークショップ(第Ⅱ期第2回)&科学史国際シンポジウム2013 (東アジア数学史国際集会実行委員会(委員長: 小林龍彦前橋工科大学教授)との共催イベント、前2日の数学史国際ワークショップにおいて中国からの招聘研究者11名を含む14名の研究発表、最終日に科学史国際シンポジウム2013(人文研術数学研究会による主催)、紀志剛(上海交通大学教授・董煜宇上海交通大学副教授による特別講演など、合同シンポジウムの総合テーマ: 「東アジア世界の科学文化を考える」)

(6) 2013年7月19日~21日 術数学国際ワークショップ2013-7「術数学と宗教文化」 (3

日目の術数学国際シンポジウム 2013「科学史、思想史から見た東アジアの宗教文化」の国外招聘者：徐光台清華大学教授・姜生四川大学教授)

(7)2013年9月13-15日 日韓術数学シンポジウム「東アジアにおける術数学への多角的アプローチ」(場所:円光デジタル大学ソウル分館) (韓国の術数学学会との共催イベント、主催：円光デジタル大学東洋学科、共催：京都大学人文科学研究所術数学研究会、後援：韓国科学文明史研究所、韓国学中央研究院、術数学研究会メンバー7名を含む日韓研究者15名による研究発表集会)

(8)2014年11月9日 術数学国際ワークショップ 2014-11(場所：あべのハルカス 24階大阪芸大スカイキャンパス) (日本道教学会 2014年度年会の併催イベントとして術数学研究会主催、日本道教学会共催、国外招聘者：吉宏忠上海市道教教会会長、姚樹良上海市道教教会副会長、尹志華中国道教協会国際部副主任)

(9)2014年12月10日 術数学国際ワークショップ 2014-12「道教研究の新展開」(日本道教学会、大阪府立大学人文学会 2014 学術研究会との共催イベント、国外招聘者：蔡林波中国華東師範大学副教授・姜生四川大学教授)・三浦國雄四川大学教授)

<国内各種学会との共催イベント>

(1)2011年12月4日 科学史学会創立70周年記念 京都シンポジウム 2011 (日本科学史学会京都支部との共催、総合テーマ「東西科学文化交流史研究の新展開」)

(2)2012年7月21日 科学史公開講演会 (日本科学史学会京都支部との共催イベント、国外招聘者：Gerhard Leinss ケンブリッジ大学研究員)

(3)2014年4月6日 胡平生先生特別講演会 (古算書研究会との共催、大阪産業大学梅田サテライトキャンパス) (4)2014年11月16-23日 中国古代文物調査ワークショップ (復旦大学出土文献与古文字研究中心との合同調査&討論会、招聘メンバー:劉釗教授・郭永秉副教授・張傳官助理研究員・謝明文助理研究員・廣瀬薫雄副研究員)

<東京での術数学ミーティング>

(一般公開の招待講演&研究発表集会、場所：大正大学単鴨校舎)

(1)2011年9月4日 術数学東京ミーティング 2011 (特別講師:宮川浩也 (北里大学東洋医学総合研究所 客員研究員「馬王堆出土医書『雜療方』の復元試案例」)

(2)2013年3月18日 術数学東京ミーティング 2013 (特別講師:小川陽一東北大学名誉教授、公開討論会のテーマ「術数学の学問的輪郭と形成過程」)

(3)2014年3月28日 術数学東京ミーティング 2014 (合同討論会のテーマ「術数学の問題圏」)

<一般公開講演会>

(1)2010年6月6日 藪内清博士追悼 東アジア科学史国際研究集会 2010

(2)2013年6月2日 藪内清博士追悼 東洋天文暦法研究国際研究集会 2013

(3)2013年11月2日 伝統医療文化シンポジウム 2013 (特別講演:山崎光夫 (作家)、公開討論会:テーマ「伝統医薬の行方」)

(4)2014年6月1日 藪内清先生追悼 東アジア科学史国際研究集会 2014

<一般公開セミナー>

(1)2011年9月2,9,16,30日 京都アスニー・ゴールデン・エイジ・アカデミー (場所: 京都アスニー4階大会議室) (京都アスニーとの共催イベント。班長の武田が企画し、術数学研究会メンバー2名を含む講師4名による公開セミナー、総合テーマ「近世日本の科学と技術」)

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

1)最終研究成果報告として班員&招待講演者による論文集を平成27年度末に刊行予定。

(2)会読した『医心方』『五行大義』『卜筮元龜』、馬王堆漢墓出土占術書等の訳注を、「東方学報」等に掲載予定。

(3)研究班で調査し、データベース化を試みた彦根市博物館琴堂文庫の占術関連資料目録データベースを今夏までに冊子化して公表し(東アジア人文情報学研究センター「東方学資料叢刊」、同時に彦根市博物館の検索システムで運用を開始する予定である。

(4)東方学会の第60回国際東方学者会議において開催される国際シンポジウム「中国古代における術数と思想」(Computational Arts (Shu-shu) and Intellectual Thought in Ancient China、2015年5月15日、日本教育会館)に班長の武田が座談会司会者として参加し、術数学研究の意義や研究プロジェクトの立ち上げを提言する。

(5)術数学関連の研究発表の場がないことを鑑み、研究会メンバーを中心に術数学研究の機関誌の発行を企画し、協議している。